



←報恩講と報恩講準備会↑

↑盆参会

←夏休みお楽しみ会↓

↑春彼岸

夏の法話会↓

発行日 令和四年八月十三日 第三十九号

浄敬寺だより



【法語】

さるべき業縁のもよおせば、
いかなるふるまいもすべし。

『歎異抄』十三章

真宗聖典六三四項



【意識・解説】

右の言葉が出てくるのは『歎異抄』の親鸞聖人と門弟・唯円の対話です。現代風に意識してみます。

親鸞「唯円房は私の言うことを信じますか？」

唯円「勿論です！」

親鸞「本当ですね。それならば、人を千人殺してきなさい。

そうすれば往生は間違いないでしょう。」

唯円「・・・。師匠の仰せではありませんけれども、この身の

器量では、一人たりとも殺せるとは思えません。」

親鸞「それではなぜ、あれだけ念を押ししたのに、親鸞が言う

ことを信じると返事をしたのですか。」

親鸞「これでわかったでしょう。判断や行動の全てが人の心

に任されているならば、命令されたら従えるはずでし

よう。でも、そうさせる縁が今のあなたにはない。

あなたの心が善くて殺さないのではないのです。

逆に、人を殺めるつもりなどなくても、百人千人を殺

すこともあるかもしれませんよ。」

人間は業縁存在です。あなたは一体どこに立って物事を見てい
るのか...と、問われる大事なお言葉です。

☆巻頭法話『コロナ禍での歩み』☆

6月中の梅雨明けという異例の気象現象で始まった夏は、連日の厳しい暑さとコロナの第七波の感染拡大で私たちの生活にも大きな影響をもたらしています。特にコロナは3年目に入り、全く収束の兆しが見えません。私個人としては先日4回目のワクチン接種を行いました。なかなか接種率も上らないように聞いています。人前に出ることの多い私としては、少しでも感染リスクを減らさねばならないと思いい接種を受けましたが、人によつては、私の家内（坊守）もそうでしたが、かなりの副反応に苦しめられるようで、そんなことも接種が進まない原因のようです。今後そういう心配のないワクチンの開発と治療薬の普及が収束へのカギになるでしょう。

今から百年ほど前にスペイン風邪が世界中に大流行し、多くの方が亡くなられたことはご存知かと思ひます。今でこそ季節性インフルエンザということでもワクチンも普及し、治療薬も開発されています。で、それ程恐れられてはいませんが、当時はただ隔離とマスクだけで対応せざるを得なかった時代でした。最終的に日本では四十五万人の方が亡くなられたということでしたが、多くの方々の罹患により集団免疫を得て収束したとも言われています。そのス

ペイン風邪でさえ三波3年で収束したそうですが、コロナは七波に至っています。死亡者の数は圧倒的に少ないとはいえ、社会生活に及ぼしている影響は今の方が大きいと言えるかも知れません。そのような中で、社会経済活動をコロナと共に進めて行こうという流れになってきています。私たち真宗教団にとつて来年は宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年、立教開宗八百年に当たります。京都東本願寺におきましては「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」というテーマで慶讃法要が厳修されることになっており、当柏崎地区に置きましても団体参拝の募集が始まっています。この法要は、御遠忌法要と同様に五十年に一度厳修されるものですが、宗祖の御遠忌から十年余りであることと、現下のコロナの影響でなかなか盛り上がり欠けるといふのも現実です。しかし御本山で今後厳修されるこのような大法要は2048年（26年後）、蓮如上人五百五十回忌まで無いということで、今年古希を迎えた私自身が御本山で参拝できる大法要もこれが最後かと思つています。五十年前、当時学生だった私は、この法要中夜警のアルバイトをしたことも懐かしく思い出されます。聖人の御誕生を通して、自らがこの世に生まれたことの意味を問うていくのがこの法要の大きな意義です。御本山も法要のやり方を椅子席

にして間隔を取る等、様々な感染対策を施して実施致します。旅程においてもご安心いただけるように対策をとりますので、是非ともご参加いただければと願っております。寺の諸行事も相変わらずおときは出せませんが、お持ち帰りにしていただきながら予定通り実施させていただいております。今後は秋のお彼岸、年末法話会などが予定されています。是非ともご参拝ください。

合掌

(住職)

☆庫裡便り

浄敬寺の日々の出来事から
坊守の所感をお伝えします。



◎お盆を迎えるこの時期になりますと、先にお浄土に還られたご門徒の方々を思い出します。全力で生きた人生の中に沢山のことを学ばせていただきます。亡き人からの問いかけをお盆を機に改めて考えていきたいと思えます。長く寺にかかわり、聴聞していただいたご門徒の句をご紹介します。

「生かされて 浮世のつとめ終いぬれば

法(のり)の光に 導かれゆく」

「後の世は 法(のり)の光につつまれて

この世にかかる むら雲もなし」

◎寺の行事の後や浄敬寺だよりを読んできださり、感想をお便りしてくださる方がおられます。嬉しくて感謝です。仏教讃歌に二十数年関わってきた私も、感動と再発見の夏の法話会でした。(内容は行事報告にあります。)その後で一緒に歌ってみたいという方からお電話いただきました。九月から一〜二回の練習日を設けて、十一月五日の三条別院音楽法要に参加できたらと思っています。ご希望の方はご一報ください。

◎社会問題になっている「カルト問題」とは？

表面上宗教行為に見えながら信者となった人が絶対服従させられ、労働時間・資産を不当に奪い取られ人権を侵害される問題です。寺の本棚には数年前から准坊守が本山から取り寄せたカルト問題についてのリーフレットが置いてあります。皆様ご一読ください。



◎住職は長年の保護司としての功績で七月一日民生安定功労表彰をいただきました。

◎毎日のニュースで流れるウクライナの状況は想像を絶するものです。戦後生まれの私たち寺族は、戦争を体験されたご門徒の方の手記の最後の言葉を深く胸に刻みたいと思います。「戦争は人の人間性が壊されます。非常事態の中、欲情の鬼と化し、悪行の様相も見聞致しました。懺悔の念禁じ得ません。戦争のない世の中を念じ筆をおきます。」

☆二〇二二年前半を振り返って

◎浄敬寺前住職二十七回忌法要（三月六日）

前住職二十七回忌を勤めました。時節柄もあり、総代・世話人様と寺族だけで勤めさせていただきました。当日も皆様にはお話ししましたが、丸二十六年も過ぎますと、ご門徒の中にはそろそろ前住職のことを知らない方も多くなっています。戦前、戦中、戦後の一番大変な時期住職として浄敬寺を護持しつつ、父親として私どもを養育してきてもらったことには感謝があります。年月の経過で親といえども記憶の中からその存在が薄くなっていくのは致し方無いことではありますが、コロナで様々な人間関係が希薄になっていく中、ご法事は自分が存在していることの意味を改めて考えさせていただく機縁かと思えます。六年後には前住職三十三回忌と前坊守（母）の十七回忌が同じ年に当たります。その節には大きな区切りとしてご門徒の皆様と共に法要をお勤め出来ればと願っています。



◎春彼岸（お中日・三月二十一日）法話 当院

お持ち帰り弁当にておとときに代えさせていただきましたが、感染症対策を講じながら参詣の皆様のご協力のもとお勤めすることができました。秋のお彼岸は九月二十三日です。お申し込みは不要ですので、ぜひお参りください。

◎第十組宗祖親鸞聖人御遠忌法要（四月十日）

二年先延ばしにした組の御遠忌がアルフォーレを会場に厳修されました。午前には信悟院御鍵役による帰敬式が執り行われ、午後からの法要、そして大谷大学名誉教授の延塚知道師による記念講演がありました。沢山の方からお参りいただきありがとうございました。

◎三条教区 慶讃法要お待ち受け大会（五月二十九日）

二〇二三年にお勤まりになる宗祖親鸞聖人の生誕八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要のお待ち受け大会が、三条別院にて開催されました。本山から門首後継者の御新門がおいでになり、会場の皆さんでお勤めする同朋唱和の勤行と、記念講演がありました。浄敬寺から車一台で参詣してきました。



◎報恩講お引上げ（五月十九日）法話 今泉温資師

宗祖親鸞聖人の御命日のお勤めである報恩講は、真宗門徒にとつて最も大事な年中行事です。今年は初めて、「報恩講準備会」を企画し、五月七日（土）に皆様と一緒に仏具のお磨きと境内の草取りをさせていただきました。報恩講は一日の法要ですが、この一日を勤めるための準備や一年間の日々の生活があります。準備段階からの大切さを今泉先生の御法話でもお話いただきました。準備会からご協力いただき、当日も多くの方にお参りいただきましたこと、感謝申し上げます。



法要後には、今年も村井宏明さんからバイオリンの演奏をしていただき、よい時間を過ごさせていただきました。

◎夏の法話会（六月二十六日）法話 白鳥 道子師

「響き合う世界へー仏教讃歌を通しての学びー」

毎年の三条別院報恩講では、初日にお待ち受け法要として『音楽法要』の形式で一座法要が勤まります。その合唱団の指揮・指導をされている白鳥道子先生から「法話をいただきました」。



そもそも、私たちが法要や日々のお勤めで遇わせていただく伝統的なお声明は、大切なお言葉に節や調子をつけられたことで伝わりやすく、耳や心に残りやすくなっています。近代になり、真宗大谷派では、五線譜の音楽に乗せて仏様の教えや親鸞聖人のお言葉を伝える名曲が沢山作られました。

それらの素晴らしい仏教讃歌の数々を、楽曲の作られた背景やそこに込められたお念仏のこころを教えていただきながら、電子ピアノの演奏と先生の美しい歌声とで教えていただきました。

印相深かったのは、河合恒人（かわいつねと）作詞、小関裕而作曲の『みめぐみの』という曲のエピソードでした。作曲者の小関裕而さんは、朝ドラ『エール』の主人公のモデルとなった方で、当時ご活躍の作曲家でした。詞に関しては、真宗大谷派が公募し、その中から選ばれたのと事ですが、当時二十歳だった河合恒人さんは、この頃の医学では絶望的と言われた「腸結核」を発病し、病床に伏していたのだそうです。お浄土の世界・荘厳を美しい言葉とメロディーで表現されたこの曲が、そのような死の淵におられた方の『いのちの叫び』であったことを教えていただきました。今年の三条別院報恩講は例年通りに厳修予定です。白鳥道子先生が指揮・指導される合唱曲と一緒に歌ってみたい方、法要にお参りされたい方はお声掛けください。各パート練習用CDもごさいます。浄敬寺からは、坊守は合唱団に、准坊守は女声だけでお勤めされる助音勤めにそれぞれ参加しております。ぜひ一緒に参りさせていただきますしよう。

◎盆参会（七月十四・十五日）法話住職・当院

ほんさんえ

十四日は住職から、十五日は当院から法話の後、勤行。おときは精進寿司の折詰のお持ち帰りとさせていただきます。

盆参会（盆内）は新潟県中越地方独特の行事で、分家に出られ



たり嫁がれたりされた兄弟姉妹の皆様が、連れ立って直接のご先祖と直接関わりあるお寺の御本尊にお参りする…というのが習わしです。近年は、新盆を迎えるご家庭にご案内し、新盆法要を兼ねてお勤めしています。大切なご親族とお別れされ、はじめて盆内に参詣してくださる方も多い法要ですので、勤行次第やお焼香の作法等を説明しております。皆さんでぜひお参りください。

◎夏のおたのしみ会（七月三十一日）

時短版のお楽しみ会、エレクトーンとピアノによる『夕涼みコンサート』と、光とカメラで遊ぶ『ライトペイント』を企画してご案内していましたが、直前の市内のコロナウィルス感染状況を鑑み、プログラムを一部変更しての開催とさせていただきます、コンサート・絵本・花火など楽しみました。

ヤマハ音楽講師のお二人、松本慶子先生・早津久美子先生によるコンサートでは、小学生のセッション絶好調の「Yosoji」、しっとり美しい「花は咲く」など、聞かせていただきました。

時短版のお楽しみ会も三年目になりました。来年はまた境内で皆さんと一緒にご飯を食べたり、宝探しや肝だめしをしたり、恒例のプログラムを復活させられたら…と思っています。

お楽しみ会スナップ



来年もお待ちしております！



☆二〇二三年後半の行事予定

八月十三日～十六日 孟蘭盆会（お盆）

* 十三日・・・午前六時より 本堂にて勤行

九月十日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

九月十八日（日）「音市場」会場

九月二十～二十六日 秋彼岸

* お中日 二十三日（秋分の日）
午前十時半～法話勤行後おとぎ

十月八日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

十一月五～八日 三条別院報恩講

* 五日（土）午前十一時より お待ち受け音楽法要
* 団体参拝のご案内については、別途お知らせします

十一月十九日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

十一月 しまい講 ↓ 休止予定

十二月十一日（日） 年末法話会 午後一時半～四時

講師 田澤一明 師（新潟市南区明誓寺住職）

二〇二三年一月一日 修正会勤行 朝六時より

一月一～二日 年始参

* 真宗門徒の一年は、御本尊のお参りから始めましょう

定例法話会『歎異抄をよむ会』のご案内

・ 基本的に第二土曜日午前九時より

・ 内容 『歎異抄』の解説、正信偈のお勤め

（終了後、ささやかな茶話会あり）

・ 持ち物 赤本・念珠・『歎異抄』の冊子



*行事に「参加の際は

浄敬寺で開催の行事においては、申し込みは不要です。
当日の開始時間を目指してお越しください。

*感染症対策のお願い

マスク着用と手指の消毒をお願いいたします。
感染症の流行状況によっては、直前の変更を余儀なくされる場合があるかもしれませんが、ご承知おきください。速報はホームページに掲載いたします。

☆宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年

慶讃法要参拝の旅のご案内

親鸞聖人の御誕生は一一七三年。そして、どのような罪業を抱えた悪人も念仏で救われる…という浄土の教えをあきらかにし、親鸞聖人が『教行信証』の草稿本を完成させたのが一二二四年と伝えられており、この一二二四年を、浄土真宗を開いた年号と明治期に定めたのだそうです。

来年、二〇二三年三月～四月にかけて二期に渡りお勤まりになる、宗祖親鸞聖人の「御誕生八五〇年」と「立教開宗」を慶び讃える御仏事が、この度の慶讃法要です。

『三条教区第十組（柏崎刈羽地区）』として団体を組んでの参拝になり、二泊三日の旅の中に法要参拝、前後には観光の予定もあります。定員がございますので、「ご希望の方はお早めにお申し込みください。」



*2023年4月24(月)～26(水)
 24日…宇治平等院観光
 25日…午前：東本願寺にて慶讃法要参拝
 午後：南禅寺将軍塚青龍伝
 ～長良川温泉へ
 26日…郡上八幡・白川郷観光

法要次第

4/23日
 4/28日

真宗宗歌
 内局挨拶
 慶讃テーマソング

先次次	出総伽	仕礼陀座	先請弥陀	於阿弥陀堂
次次	御伽	登高陀座	仏説阿弥陀經	音木有之
次次	三和	下高陀座	直入弥陀	
次	回	重念	伽陀畢而鑿一下	
次次	総正念	和添	海三	
次次	和	信	信心すなわち一心なり(両堂にて同朋唱和)	
次次	回総恩退	徳	無上	
			世尊我一心	
			草四句目下(両堂にて同朋唱和)	
			海三	
			弥陀成仏のこのかたは	次第六首
			願以此功德	

※伽陀・御経・懸和讃は阿弥陀堂にて調声、正信偈・念仏・和讃は御影堂にて調声となります。



＜慶讃テーマ＞

南無阿弥陀仏
 人と生まれたことの意味をたずねていこう

☆真宗門徒の豆知識

『真宗門徒の』

「いただきます」と「ちそうさま」

六月に満一〇一歳でお浄土に還られた御門徒の方の葬儀の際に、施主のお父様から聞かせていただいたのですが、長年お食事の際には家族そろって、食前・食後の言葉を唱和していた…とのことでした。私たちがこの大地に生かされ、様々ないのちを頂きながら存在していることに誠実に向き合って生きておられた姿に、改めて感動でした。皆様もぜひお食事の際に「唱和」ください。

ちよっころ
 解説



「われ今」「浄き食」

が表す大事なこと

私たちは、沢山の縁の中で偶然に誕生し、この日常もひとつ変化があれば、どうなるかわからない身と命を生きています。そして、私たちに食べられなければそのまま生きていたであろう生き物の命を、私たちは食事をしていただきます。つまりその命は、既に浄土に還られた命（浄き食）でもあります。

当たり前ではない「今」「幸い」に「いただく命を私のいのちに代えて、この身を大切に生きていく。そうやって、命を繋ぐ縁に遇えた私が、その生き様を縁ある方々に伝えていく。これが「心豊かに力が身に満ちた私」が担っていくお仕事ではないでしょうか。

食前のことば
 み光のもと
 われ今、さいわいに
 この浄き食をつく
 いただきます

食後のことば
 われ今
 この浄き食をおわりて
 心ゆたかに力身にみつ
 ごちそうさま



職場の良寛記念館の関係で、『ごんぎつね』の作者である新美南吉が影響を受けたといわれる良寛について、自分の認識が間違っていないか意見を聞きたいという問い合わせがありました。内容の一つに「新美は物語の中で人それぞれに分相応な生き方があると示唆している。良寛もいろいろな人と親交があったが、その人に『このように生きよ』とは言わず流れに任せている。良寛も新美も、人間は無理をせず身分相応な生き方があると教えているのではないか」とありました。

私は新美南吉について詳しいことは分かりませんが、良寛は農民の子どもたちに読み書きを教え、その中で特に優秀な子がいると、進路のアドバイスをしています。その中で良寛に医者になるように勧められた子もいて、実際にその子は医者になりました。そのようなエピソードから、良寛は生まれや職業などの身分にとられないような生き方をすすめているように思えないことをお伝えしました。その後、人間にとって「相応」した生き方とはどういうことなのか疑問が起こり、調べてみました。

「相応」は、お正信偈にも名前のある天親菩薩が記した『浄土論』に「与仏教相応（仏教と相応す）」とあり、仏教の言葉です。当時様々な方向性のあった仏教の解釈を「仏法本来の正しい方向に向ける」という意味だそうです。天親菩薩のいう「仏法の正しい方向」とは、沢山のお経の中でも「無量寿経」に目を向けなさいということであり、その「無量寿経」で説かれていることこそ「南無阿弥陀仏とただ、お念仏しなさい」という教えです。

もう少し早く「相応」について勉強していたら、仏様の教えに相応した生き方について話がふくらんだかもしれません。

（当院）

☆編集を終えて：

新型コロナウイルス感染症も一つの節目を迎えたのででしょうか。延期されていた行事や、落ち着いている今だからこそその行事が催行され、過ぎてみると行事報告の多い二〇二二年上半期でした。

初夏を迎える頃、音楽での地域おこしや非戦平和の訴えを長くされて来られた方が、闘病の末お浄土に還られました。薬剤師というお仕事に関する能力が優れているだけでなく、非常に感性豊かな方で、芸術的な才能や人に寄り添う力が絶妙な素敵な方でした。月命日にお参りに寄せていただくと、ご自身の赤本を用意され、後ろで一緒にお参りをお参りされている姿も印象的でした。その方の思いの詰まったイベント『音市場』が今年も開催されます。浄敬寺本堂も会場の一つとしてご縁をいただいています。

親しくさせていただいた方とお別れするのはとても悲しいことですが、影響を受けた人々が悲しみの中から立ち上がり、思いを受け継いでさらに発展させていくこともまた大事なことで、それは先にお浄土へ還られた方からのギフトとも言えるでしょうか。

音楽を通して、地域・社会・人と繋がりたいという思いの詰まった『音市場』。一日パスポートを購入して、市内を巡ってみるのはいかがですか？（晴香）

☆連絡先 浄敬寺
TEL:0257-22-2481
FAX:0257-22-2140
Mail : jyoukyouji222481@gmail.com
住職 tomi814@kisnet.or.jp
当院 minipapa@kisnet.or.jp
晴香 haru310@kisnet.or.jp

報恩講準備会ご参加の皆様
ありがとうございました

